

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 12 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26381274

研究課題名(和文) Japanese Children's Books as Intercultural Learning Resource

研究課題名(英文) Japanese Children's Books as Intercultural Learning Resource

研究代表者

J・I Pollack (Pollack, J. I.)

九州大学・留学生センター・教授

研究者番号：50403910

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円

研究成果の概要(和文)：この三年間のプロジェクトを通して、日本を訪れる外国人のための異文化学習オンライン教材となるウェブサイトの作成を行ってきた。その作成にあたっては、まず福岡市内の小学校教師(1年生～3年生担当)を対象に、彼等が自分達の児童に教訓的・道徳的価値観を学ばせるために読ませたい絵本は何かについて調査を行った。その結果を踏まえて選出した各絵本の概要をウェブサイトに載せ、その概要を通して日本文化の一端を紹介している。このウェブサイトは、日本を訪れる外国人にとって日本人の生活に目的や意味、秩序を与えている日本の中心的価値観とは何かを知る手がかりになるものと思われる。

研究成果の概要(英文)：This three-year project has resulted in the development of an online cultural learning resource for visitors to Japan. It introduces aspects of Japanese culture through synopses of popular Japanese children's books favored by Fukuoka City elementary school teachers for their didactic quality and benefit. The site draws special attention to core Japanese values that give purpose, meaning, and order to Japanese lives.

研究分野：文化人類学

キーワード：絵本(子供向け絵本) 文化化 社会化 文化学習 異文化学習 異文化間学習

1. 研究開始当初の背景

筆者は九州大学にて長年日本文化について教鞭をとってきた。2013年にはそれを基に、多様な異文化能力を身に付けたいと考えている短期滞在者向けに、日本の子供向け絵本において描かれている子供が社会化する過程で学ぶものを探ることの意義について議論した論文¹を発表した。そこでは、日本人として一般的あるいは典型的なものとして考えられる基準となる規範や目標といった日本の文化的価値観の教訓的源となるものについて分かりやすく魅力的に様々な視点から提供している。また、彼等の文化化についての役割を見るために筆者の担当するコースにて短期留学生に課してきた絵本を分析するという課題がある程度の成功を収めていると同時に、それらがこの研究プロジェクトの目的やデザインにひらめきを与えるものとなった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、実際の教育現場に立つ教師が好んで選ぶ絵本は何かを調査することにより、慣習的・規範的なものとして捉えられる日本らしさとは何かについて代表的なものを抽出し、より信頼性のあるものを収集し、そうした日本の文化的価値観を学ぶために有効な文化学習のためのウェブサイトを作成することである。さらに、日本らしさの価値観として選出されたものは、現場の教師によって選出された各絵本の概要を通して記載され、繰り返し見ても飽きないような語りやイラストを用いることとする。子供向け絵本というのは単純な文章で想像的に描かれることも多く、文化学習をしようとする成人学習者にとってこうあるべきというモデルを示すには必ずしも十分であるものとは言えない。しかしながら、日本人にとって最も重要な価値観に焦点を当てていると同時に、それらについて子供達が捉えるべき方向性についてどのように教えられているのかがうまく示されている。

この研究は、最終的にはこれまでにない英語でのオンライン教材を作り上げることで、日本の生活様式に対する気づきや理解を深めることに貢献するものである。

3. 研究の方法

このプロジェクトは、3年という期間の中で3段階のステージを踏んでいる。

第1段階においては(平成26年度)、福岡市全域の157の小学校に勤務する1年生～3年生担当の教師を対象に調査を行い、彼等が子供達の指導のために好んで使用したいと考える絵本はどのような本かを特定した。さら

に、その調査では、筆者と筆者の研究助手とで選出・作成した69の項目からなる日本の価値観あるいは規範が示されたものを参考として、それぞれの絵本が伝えようとしている道徳的価値観とは何かを自由記述も含め選択してもらった。24校、144名の教師から得られた回答には、おおよそ180冊の絵本が選出され、その中で複数名に選出された絵本は50冊あまりであった。全ての回答を検討し、ウェブサイトにおける絵本の概要等に有効と考えられる範囲において分類し、データベース化した。

第2段階では(平成27年度)、初年度に得られた結果をもとに、40冊の絵本を精査し、その中から25冊を選出した。その選出にあたっては、日本語初級学習者や初めて日本の文化を学ぼうとする者にとって日本語でも読みやすく入りやすいものという視点から選んでいる。また、各絵本が文章やイラストにおいて最も重要なものとして伝えようとしているものについて注意深く検討し、ウェブサイトに載せる各絵本の概要の中で中核とすべき日本の文化的価値観をそれぞれ抽出した。さらに、抽出された日本の文化的価値観についての項目を精査し、絵本の概要とともに載せる価値観リストにおいて付加すべきものなどがある場合はその都度検討していった。最後に、アメリカの学会にてポスター発表を行うため、事前に各出版社に問い合わせ絵本の表紙等の使用許可を得、5冊の絵本についてウェブサイトに基盤となるものを作成し載せた。

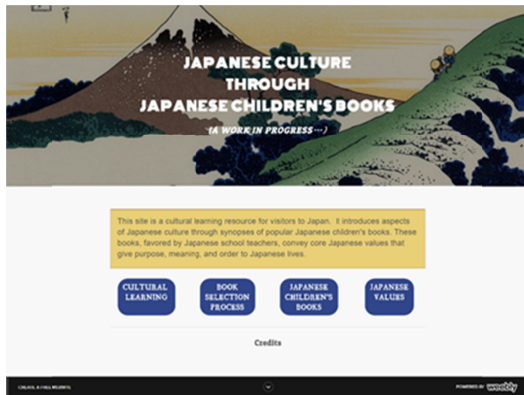
第3段階(平成28年度)は、実際にウェブサイトの作成に取り掛かり始めた(軌道修正等の必要性もあり現在も作成中である)。絵本の分析や概要の作成は現在も続いているが、一方でウェブサイトを学習目的として使用するための説明部分や日本的価値観の語彙を挙げたりリスト、絵本がどのようにして選出されたのかなどについての大枠部分については既に作成されている。

4. 研究成果

本プロジェクトの成果としては、日本を訪れる外国人のために文化学習ができるようなオンライン教材が公開されている。下記の写真から分かるように、最初のページには「Japanese Culture through Japanese Children's Books」というタイトルが記されているが、それは福岡市の小学校教師が自身のクラスで使うのであればという前提で選んだ絵本の分析的要約によって抽出された核となる価値観を発見したり尊重したりすることを促す狙いがあると同時に、それを益のあるものとして啓発するものである。

このサイトは次のようなものを含んでいる。まず、文化について学ぶことの重要性やその性質について理論的に説明している。次に、特徴のある絵本として選出されたものがどの

¹Pollack, Jordan I. "Japanese Children's Books as Intercultural Learning Resource," 九州大学留学生センター紀要, 2013, 第21号, 101 - 116



ように選ばれたのかが考察されている。そして、選出された絵本において示されている日本の文化を象徴するような価値観のリストが作成されている。さらに、各絵本の出版年や作者などの情報とともに絵本の要約と絵本が示す文化的価値観が載せられている。より詳細に言えば、文化学習というものが慣習的生活様式やパターン化された行動などの様々な能力やそれらに効果的に適切に同調する能力を獲得するものであるということが説明されている。慣習化された生活様式あるいは行動様式というのは、ある人間グループを典型的なものとして特徴づけるだけでなく、そのグループの一員として行動するために導く制御的な役割を果たしている。それは、その文化においてそうした能力を身に付けることが異文化において成功するためには欠かせないものであるからである。そうした能力は、その文化において人々がどのように考え感じているのかということをつつ括した核となる目標や規範価値観を学ぶことによって表れる。

先述の調査結果で示したように、現場の小学校教師が子供達と共に最も読みたいと考える絵本、それらはその価値観を教えるものとして意義があり、それぞれの絵本によって表される適切なものであると考える。サイトの編集においては、調査結果から得られた全ての本の中でも特にこれを学習素材として学ぶにあたって理解しやすいような本を選出している。文化的価値観リストの項目についてはおおよそ 80 もの価値観を表す語彙が挙げられている。それらは、筆者と筆者の研究助手とともに3年に渡って精査し集められたものである。その全てがそれぞれの絵本に表れている価値観である。そこで生きるために文化的価値として長く必要とされると同時に目指されるべきものと捉えられる価値観がある。例えば、「和」(人々の間に調和のある相互作用や一致した状態をもたらす)、「幸せ」(幸運な状態や喜び)、「絆」(人々の間にある強い結びつき)などである。規範としての価値観は、適切な倫理観や礼儀作法、態度や形式など、行動規範としても尊重されているものである。例えば、「自立」(自分で何かを成すこと、人に頼らず自力で行うこと)、「誠実」(人と接するにあたって正直に行動す

る)、「節度」(自身の行動において謙虚さを保つ)などもそうである。

各絵本に表れている価値観は全て絵本の概要を載せているページにリストとして明示されている。ウェブサイトに載せるものとして選出された絵本は、日本において何が行動規範となっているのかを伝える意図がある。このことは日本の子供だけでなく文化を学ぶ者にとっても意義があるであろう。各絵本の概要は 500 字程度に要約されている。それは、絵本のもつ目的や意味などに焦点を当て話しの内容がもつ要素を凝縮させるためである。例を挙げるならば、世に一定程度知られている「いいから いいから」(長谷川義史 2006)、「かわいそうなぞう」(つちやゆきお 1970)、「ともだちや」(内田麟太郎 1998)、「花さき山」(斎藤隆介 1969)、「おてがみ」(中川李枝子 1969)、「給食番長」(よしなが光沢 2014)、「教室はまちがうところだ」(蒔田晋治 2004)などがある。

「Japanese Culture through Japanese Children's Books」(異文化学習オンライン教材としての日本の子供向け絵本)は、短期滞在者がこれらの絵本を通して日本の文化に関わるための価値や意義を提供していると同時に、これまで十分に検討されてこなかった文化学習素材としての絵本を活用した積極的な自己学習や日本の生活・行動様式を発見する手掛りを提供するものであろう。

5. 主な発表論文)

〔学会発表〕(計1件)

Jordan I. Pollack. "Japanese Culture through Japanese Children's Books," "Global Learning across the Curriculum" poster session. NAFSA—Association of International Educators conference, June 1, 2016, Denver, Colorado, USA.



〔その他〕

ホームページ等

<http://japanese-cultural-values.weebly.com/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

ポラック ジョーダン イアン

(POLLACK, Jordan Ian)
九州大学・留学生センター・教授
研究者番号：50403910

(4)研究協力者
緒方 尚美 (OGATA Naomi)